

Title	ボランティアが活躍できる社会のために
Sub Title	
Author	岡部, いづみ(Okabe, Izumi) 田中, 滋
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2002
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2002年度経営学 第1755号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1755">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002002-1755</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

## 論文要旨

所属ゼミ	田中滋 研究会	学籍番号	80128157	氏名	岡部いづみ
(論文題名)					
ボランティアが活躍できる社会のために					
(内容の要旨)					
<p>日本は世界でも類を見ないほどの猛スピードで、超高齢化社会へと向かっている。その一方、未だ景気が低迷している現況においては、高齢者の就業意欲は高いものの、定年退職年齢の65歳への引き上げはなかなか進まず、加えて高齢者の有効求人倍率は0.2を切っており、非常に低い。特に、現行の60歳定年制の下で、1947年から1949年生まれの700万人とも言われる団塊の世代に属するサラリーマンの多くが退職年齢を迎える5～7年後には、就業意欲の未だ旺盛なリタイア組みが爆発的に増える見込みである。今後増えつづけて行くこのように体力・気力ともに充実した定年退職者の就業意欲を生かせる社会的枠組みを実現することは、社会の多くを占める彼らに生きがいを与えるのみならず、企業という組織を離れてしまうことで埋没してしまいがちな人的資本を、再び社会に還流させることとなる。</p> <p>またその一方で、これまでの政府や企業主導の社会構造が経済発展のためには効果的な方法であったものの、このシステムを今後継続させて行くことが困難であることも周知の事実である。よって、本研究においては、今後増えつづけて行く気力、体力、意欲ともに充実した定年退職者を社会に還流させる仕組みを非営利部門の中の市民活動、私が規定するところの『ボランティア・セクター』において考察することを目標とするのだが、これは、既存の社会構造ではうまく機能しなくなってきた社会の要請であり、必然とも言えるのではないだろうか。</p> <p>考察の手段としては、病院ボランティアを取り上げ、日米の医療・介護機関にインタビューを行った。これらの実際の事例を通して、ボランティアの促進要因、または阻害要因を明らかにしていく。</p> <p>『ボランティアをしたい』というニーズと、『ボランティアの手を借りたい』というニーズを分かりやすく、効率よく結びつけて行くことが、ボランティア・サービスの供給者と需要者の双方の数や多様性を拡大させ、相乗効果でボランティア・セクターというものを活性化させていくと考え、ボランティアが日本の社会の中で、より活躍の場を広げられるようにするためには、社会として、どのような組織またはシステム作りが求められるのか。そのモデルとなりうる New York Cares を例に取り上げながら、既存の社会福祉協議会が運営するボランティア・センターと比較をしつつ、今後への道しるべを示したい。</p>					